

2018年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
対照言語講座	8/14(火) 18:00～21:10	日中対照講座 (副題)「翻訳言語というのは、実にわれわれの鏡像そのものだ。 純文学で楽しめる又吉直樹の日本語表現を事例にして」	毛丹青 神戸国際大学	日本人はなぜ私たちと違う悲しみ方をするのか、村上春樹や又吉直樹の小説を翻訳しながら常に投げかけたくなる質問だ。人間の感情の表出はその人が属する社会や文化の影響を色濃く受けている一方、もっとも反映されているのはその言葉ではないのか。もちろん表現上の個人的特異性を意味するではないが、しかしその多くの要素が言葉としてかならず絡んでくるはずだ。今回は越境する文学における言語の表現を取り上げたい。それと同時に非母語話者として日本語で紡ぐ大きな喜びについても触れたいと思っている。
	8/16(木) 18:00～21:10	日越対照言語講座 (副題)「ベトナムの学習者のためのリズムとアクセントの教え方実践編」	金村久美 名古屋経済大学	昨年の対照言語学講座では、ベトナム語と日本語の対照言語学的な違いと、その結果生じる日本語学習上の困難点について理論を中心に学んでいただきました。今年の講座では、理論的な違いを復習し、これに基づいて、ベトナムの学習者にとって学びやすい実践的な教え方を提案したいと思います。特に、リズムとアクセントの教え方を取り上げ、教え方のデモンストレーション、解説、教材の紹介等を行います。母語の音声体系から日本語の音声の体系へと学習者に移り移ってもらうために、限られた指導時間の中でできることは何か、先生方と一緒に考えてみたいと思います。ご参加いただいた先生方に、明日から「これならできそうだから、ちょっと教えてみようかな?」と思っていただければ幸いです。
夏季セミナー	8/13(月) 9:20～16:45	学習者のコミュニケーション能力を伸ばす語用論的指導	清水崇文 上智大学	学習者のコミュニケーション能力を伸ばすには、言語構造の知識に加えて、言語運用の知識(語用論的知識)も習得させることが大切です。本セミナーでは、第二言語習得や語用論の知見に基づいた語用論的指導を紹介し、学習者が「相手の気持ちに配慮しながら、言いたいことをしっかり伝える」ことができるようになるために教師は何ができるかを考えてみたいと思います。
	8/14(火) 9:20～16:45	さまざまな日本語を分析する	野田尚史 国立国語研究所	日本語教師には、学習者の日本語を含め、さまざまな日本語を瞬時に分析する力が求められます。このセミナーでは、日本語の分析力を高めるために、野田尚史・野田春美『日本語を分析するレッスン』(大修館書店、2017年)で取り上げられている問題をいっしょに折していきましょう。扱うテーマは「しりとり」「会話の失敗」「マンガのことば」「丁寧体と普通体」の予定です。
	8/15(水) 9:20～12:30	漢字の面白さ再発見	笹原宏之 早稲田大学	文字・表記の指導では、複雑で数が多く規則性も見出しにくい漢字に対する興味付けが難しい。まずは教師が漢字の本質と多様性、背景を理解する必要がある。漢字の魅力を伝えるために必要な知識と柔軟な考え方、興味を抱かせる実践例を示す。
	8/15(水) 13:30～16:45	漢字授業の作り方 ー漢字を楽しく効果的に教えるためにー	鈴木英子 宮城県国際化協会	漢字は繋がりを利用して、体系的に覚えることが可能です。非漢字圏学習者が「漢字の面白さ」を発見しながら、楽しく効率よく学ぶための指導方法を紹介し、学習者の視点に立った授業作りについて考えていきたいと思います。
	8/16(木) 9:20～16:45	学生を惹きつける教材・教具 ー指さし棒から紙芝居までー	三門準 亜細亜大学	教材・教具は日本語教師にとって必需品です。でも、オンリーワンの教師を目指すなら、身の回りのものを教材・教具に変えるアイディアやノウハウが必要になります。午前はその実践例を紹介し、午後はオリジナルな教材・教具の作成法や活用法を体験しながら、皆さんといっしょに、すぐに使えて、長く使える教材・教具を考えていきたいと思います。
	8/17(金) 9:20～16:45	よりよい授業をするための文法 ーそのセンスとスキルをみがくー	菊地康人 東京大学	文法だけで授業が成り立つわけではもちろんありませんが、文法に弱い教授者の授業は、やはり心細く、学習者に気の毒なことにもなります。文法は日本語教育にどう生きるのか、教授者がどのような文法的センス・文法的スキルを持っているとよい授業になるのか、その力をどうみがいていくか等を具体例に即して考えていきましょう。「日本語を教えることで見えてくる文法」にも触れたいと思っています。
特別講座	7/11(水) 14:00～17:10	文体は言語と文学をどう結びつけるか。 ー夏目漱石未完の小説『明暗』の文体は水村美苗の『続 明暗』に継承されているか。ー	牧野成一 プリンストン大学名誉教授	人間の言語行動と非言語行動には人間に普遍的な部分と個人的な部分があります。フェルディナンド・ソシュール というフランスの言語学者(1857-1913)は言語に関して普遍的な部分をlangue(ラング)と呼び、個人的な部分をparole(パロール)と呼んでいます。大事な点はパロールはラングの決まりの中から個人的に撰び取って生まれるということです。このことはソシュールの死後1916年に彼の弟子が纏め上げたCours de linguistique générale(『一般言語学講義』)に出て来ます。そこで今回主題として取り上げる「文体」とは何かという話し手・書き手が自分の言語の決まりの中から特徴的な選択をして話す・書くことから生まれる特徴の束です。私の講演では書き手に夏目漱石を選び、彼の未完の作品『明暗』(1916)でどのような文体を使ったかの一部を取り出します。実は『明暗』を完成させた作品は水村美苗(みずむら・みなえ)の『続 明暗』(1990)と桑川光樹(くめかわ・みつぎ)の『明暗ある終章』(2009)の二つがあります。私の講演では水村の続編を分析の対象にして、漱石の文体を水村がどのように移し変えているのかを検討し、その過程で言語と文学を結びつけたいと思います。最後に文体を日本語教育にどう取り入れたいのかについて触れたいと思います。

2017年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
冬季セミナー	12/16(土) 9:20～12:30 13:30～16:45	一歩進んだ日本語文法の教え方 —日本語教育文法の理論と実践— パート1「日本語教育文法の目的」 パート2「日本語教育文法の実践」	庵功雄 一橋大学	パート1: 日本語教育文法の目的 日本語教育文法は2000年代以降に現れた考え方で、日本語教育に直接役立つ文法研究を目指すものです。ここでは、日本語教育文法が現れてきた背景を概観し、理解レベルと産出レベル、産出のための文法、有標と無標、文法シラバスの見直しといった、日本語教育文法を考える上で重要な概念について説明します。 パート2: 日本語教育文法の実践 日本語教育文法が最も有効なのは類義表現の記述においてです。ここでは、条件を表す「と」、ば、たら、なら」、主語を表す「は」と「が」などの使い分けを日本語教育文法の立場から考えます。また、文法項目を段階的に導入することの有効性を示す例として、ボイス表現(受身、使役、自他の対応)を取り上げて説明します。
対照言語講座	8/15(火) 18:00～21:10	日泰対照言語講座 (副題)「タイと日本との相違点～言語から社会・文化まで」	コースイット・ティップティエンボン 東京外国語大学	タイと日本は長年親しみをもち合っており、交流も盛んです。タイには多くの日本文化が流入しており、日本語や文化を学びたいタイ人が多くいます。両国の相違点を知りながら、相互理解を深め、学習の面でも役に立つお話をさせていただきます。言語面では、タイ語は声調があり、孤立語で活用しないことから、タイ人は日本語を学習する際、様々な面で困難な局面に遭遇します。また、文化面では、日本は挨拶言葉を使う場面が多いことやタイより時間を遵守することなどの違いがあり、タイ人の学習者にとって、これらを知っておけば、より日本人とのコミュニケーションが円滑になります。今回の講義では、歴史的な背景を踏まえて、日本および日本語と比較しながら、タイ語の特徴を考察し、タイ人特有の感覚やタイ社会の最新事情などを紹介したいと思います。
	8/17(木) 18:00～21:10	日越対照言語講座 (副題)「音声と文法の対照を中心に」	松田真希子 金沢大学	ベトナム人日本語学習者に、他の国の学習者と同じように日本語を教えても、なかなか同じように上手にならないという悩みをよくききます。その原因はどこにあるのでしょうか。そして、どうすればいいのでしょうか。私は10年以上前からこの問題に悩み、少しずつ答えを探してきました。そして、問題の一つは、日本語とベトナム語の言語間の距離が遠いことにあるとわかりました。特に音声と文法面の隔たりが大きいです。今回の講座では、ベトナム語と日本語の音と文法の違いについて皆様に学んでいただき、効果的な指導法についてお話ししたいと思います。
夏季セミナー	8/14(月) 9:20～16:45	楽しく漢字を学ぶ活動を考える	関麻由美 津田塾大学	難しい、すぐ忘れる、エンドレス感に苛まれるという学習者の心理的な負担を軽くし、楽しく漢字学習ができる方法を一緒に模索します。午前は漢字学習・教育の問題点を共有し、実践例(個別学習から協働学習まで)を紹介します。午後はこの漢字を学ぶとどんなことができるようになるか(Can-do)という観点から教室活動を創るワークショップを行います。
	8/15(火) 9:20～16:45	発音指導や学習が楽しくなるための活動を考えよう	中川千恵子 早稲田大学	発音はコミュニケーションの基本であり、まず教えるべき項目ですが、難しいと考えて後回しにされがちです。「伝えること」が第一目標だとすれば、できることはそれほど難しくはないはずです。あとは、学習者自身の力を信じて、学習者自身が自分の発音の癖に気付いて、意識し、学習を楽しむ持続できるように支援することが次の目標でしょう。教師がそういう支援ができるような教室活動を考えたいと思います。
	8/16(水) 9:20～16:45	日本語学習文法再考 —ノンネイティブの視点から考える—	井上優 麗澤大学	外国語教育における文法や意味の説明はネイティブの感覚に基づくのが一般的ですが、ネイティブがよいと思う説明がノンネイティブの学習者にとって「わかりやすく役に立つ」とは限りません。本セミナーでは、私たちが外国語を学ぶときの経験を振り返りながら、日本語教育における「ノンネイティブにとって有益な説明」について考えます。
	8/17(木) 9:20～16:45	協働の学びの場のデザイン その2	館岡洋子 早稲田大学 広瀬和佳子 神田外語大学	近年、日本語の教室では「協働」をいかけた教室活動が多く行われています。しかし、そもそもなぜ協働するのか、ということについては、十分に問われていないのではないのでしょうか。本セミナーでは、「協働することによって何をめざしているのか」「協働といえばグループ活動をするのかなど」などについて、実践事例を紹介しながら教室における協働について検討します。
	8/18(金) 9:20～16:45	教師はどうやって学習者のやる気を引き出すのだろうか？	横溝紳一郎 西南学院大学	「どんなに上手く教えることができて、学習者にやる気がないとうまくいかない…。とはいっても、やる気のない学習者を目の前にして、一体どうすればいいのか…。」日本語を教えた経験のある方なら、この思いを一度は持ったことがあるでしょう(私自身もあります)。一日かけて「教師＝学習者の学習成果を上げる支援者」と捉え直し、このジレンマの打開と一緒にチャレンジしてみましょう！
特別講座	8/6(日) 13:30～16:40	省くか、繰り返すか、それが問題だ	牧野成一 プリンストン大学名誉教授	機能言語学的な省略の分析は久野の『談話の文法』(1978)で体系的に議論されている。その著書で久野は「省略の主目的は、話し手が何も言わなくても聞き手にとって自明のインフォメーションを省くことによって、文の冗長度を下げることであろう」(p.8)と述べている。それでは、反復は単に文の冗長度を上げることだろうか、と考え、私は反復の分析を『くりかえしの文法』(1980)で書いた。その後、劇作家の平田オリザと出会って話し合ったことがきっかけとなり、繰り返しの問題を過去5、6年再考してきた。私の講演では反復をめぐる次の9点の問題点に関して話す。 (1)「穴あけ規則」という随意的な省略規則は常に随意的か。(2)反復はlogos(論理)ではなくpathos(感情)を表現するか。(3)詩的感情はリズムの反復で創られるか。(4)「会話」と「対話」における反復はどんな機能を持っているか。(5)文法は反復とどう関係するか。(6)慣用的な反復表現の役割は何か？(7)いつ日本の幼児は相互作用のために反復を使い始めるか。(8)日本語初級教科書のダイアローグの反復は十分か。(9)数学者プノワ・マンデルブロの「フラクタル幾何学」の発見は反復理論に何を示唆するか？

2016年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
春季セミナー	3/25(土) 13:30～16:40	学生が主体的に学ぶ授業を実現する	吉田新一郎 「ランズケイブ」代表	本来、指導と評価は切り離せないものなのですが、日本の教育はこれらを長年分けて実践してきました。それが学生主体の授業を阻んでいる大きな理由の一つです。指導と評価の一体化のカギは形成的評価です。評定ではない形成的評価をやり始めると、学生も教師も成長します！
冬季セミナー	12/18(日) 9:20～12:30 13:30～16:40	評価を考える パート1「日本語教師が知っておくべき評価の基礎・基本」 パート2「日本語教育におけるコースデザインと日本語能力評価」	伊東祐郎 東京外国語大学	パート1:日本語教育における「評価法」は、教授法分野では重要な位置を占めているにもかかわらず、理論的側面と実践的側面が体系的に統合されているとは言い難い状況です。パート1では、私たちの身近なテストや評価方法を取り上げ、学習者のどのような言語知識や日本語運用能力を測定しようとしているのかを検討しながら、評価における日本語テストの役割と特徴を考察し、日本語教師に求められるテスト作成と評価に関する基礎知識を身につけることを目的とします。 パート2:コースデザインの中で明確な教育目標を定めておくことは不可欠です。教育目標は、有意味な授業内容の実現と授業開始後に実施されるテスト開発や評価方法を策定する上で重要な役割を果たすからです。パート2では、日本語能力評価とコースデザインの在り方を教育目標の分類学から考察し、日本語教師が目指すべき日本語能力をテスト開発の視点から再考します。テスト作成の演習に取り組みながら、関連分野についての理解を深めることを目指します。
対照言語講座	8/16(火) 18:00～21:10	日英対照言語講座 (副題)「日本のことはマンガとゲームで学びました」	ベンジャミン・ボアズ 翻訳家・ライター/慶應義塾大学訪問研究員/クールジャパン・アンバサダー	第二言語の習得には、教科書の勉強に集中するだけよりも、関心を生かした勉強がより効果的です。私はマンガとゲームで日本語を勉強しました。その結果、現在では在日約10年、国際コミュニケーション・コンサルタントとして活動しています。本講座では、日本語を学ぶ側の視点、そして英日言語文化の違いなどをお話します。是非ご参加下さい。
	8/18(木) 18:00～21:10	日モ対照言語講座 (副題)「モンゴル民族のくらしの中のしきたりと言語表現の特徴」	温品廉三 東京外国語大学	人と出会ったときの「握手」や「おじぎ」は、モンゴルでは?モンゴル語の「さようなら」の表現の、もともと意味は?モンゴル人が「縁起のよい数字」と考えるのは、いくつ?ものをわたすときの、モンゴルのしぐさと配慮とは?以上のような話題をとりあげながら、関連する語句・表現を紹介します。さらに、そのなかにあられる発音や語彙や文法について、日本語との類似点と相違点を考えます。
夏季セミナー	8/15(月) 9:20～16:45	協働の学びの場のデザイン—ピア・リーディング入門	館岡洋子 早稲田大学	初級から上級まで、いわゆる「読解」という授業が展開されていますが、どうしても受身になってしまうことが多いようです。多様な学習者がともに学ぶ教室という場をいかした活動とはどのようなものでしょうか。テキストを媒介として、互いを知り合い、テーマについて深く考え、自分自身についても知るということをめざした授業についてご紹介し、「協働で学ぶ場」について考えたいと思います。
	8/16(火) 9:20～16:45	実感!音声学	川原繁人 慶應義塾大学	皆さんはもし怪獣「ゴジラ」が「コシラ」だったら、どんなイメージを持ちますか?このように音から連想されるイメージは私たちの発音の仕方や音響特徴と深く関わっています。前半では空気の「物理的な振動」が「心理的な音」として理解されるまでを、後半では最新の研究を紹介しながら、五十音図に隠された規則性や「ないはずの音」が聞こえる等日本人の知覚の特徴を実感していただこうと思います。
	8/17(水) 9:20～16:45	敬語コミュニケーション教育を考える	坂本恵 東京外国語大学	敬語を狭く語彙としてのものだけに限定せず、広く大きなシステムとして捉え、「敬語コミュニケーション」とする。日本語母語話者が無意識に行っている言語行動を解きほぐし、分析、理解し、その中で敬語の位置づけ、敬語以外の配慮などについて考える。他言語との比較、対照も行う。その上でどのように指導するかを考えたい。
	8/18(木) 9:20～16:45	ICTを活かして授業をインタラクティブに	山田智久 北海道大学	(午前)学習者の視点からICT授業を体験しよう (午後)教師の視点からICT活用を考えよう 本セミナーでは、パソコンやデジタル機器を使ったICT授業を実際に学習者となり体験していただきます。その体験をもとに、どのように自身の授業へと取り入れるかについて考えていきます。興味はあるけれど今さら他人には聞けない。本当に便利なの?いろいろな理由でアナログ教師のままでストップしてしまっている方、百聞は一見に如かずです。ICTを取り入れた授業を体験し、授業をよりインタラクティブにしてみませんか。
	8/19(金) 9:20～16:45	「文脈化」・「個人化」で完全制覇!日本語教師のための初級文法	川口義一 言語・生活研究所代表/早稲田大学名誉教授	(午前)「文脈化」の文法指導 (午後)「個人化」の表現指導 昨年本講座では、ALやCAの欠陥を克服し、学習者主体の教育への展望を開く、「文脈化」・「個人化」教授法について、応用実践例を通してお話ししました。本年は、前者については「文法の使い方を教える」、後者については「文法を自己表現の道具にする」という側面から検討したいと思います。昨年同様、ワークショップ形式で議論していきましょう。
OJAD講習会	7/15(金) 15:00～17:00	OJAD(Online Japanese Accent Dictionary)とそれを利用した音声指導	峯松信明 東京大学	「日本語らしく自然な発音を身に付けたい」と考える学習者は多いですが、音声・韻律教育の教材が十分ではありません。このような現状に鑑み、 a) アクセントやその変形の様子を、教科書ガイドとして、素早く、分かり易く表示し、 b) 適切な共通語アクセント・イントネーションを任意の文に対して表示し、 c) その通りに読み上げる、 などの機能を備えたOJADが、国立国語研究所との協力で開発されました。本講習会では、以下の3点を学び、体験することができます。 1) 日本語アクセント・イントネーションに関する基礎知識の整理 2) OJAD4機能の紹介と、演習形式での体験学習 3) OJADを使ったスピーチ指導の指導法 本講習会はこれまで27ヶ国87回行なわれました。今回は、88回目です。
種別	日時	タイトル	講師・所属	内容

特別講座	7/2(土) 13:30～16:40	日本語の声―受動文、自発文、敬語文、可能文の分析を通して―	牧野成一 プリンストン大学名誉教授	英文法では受動態のことをPassive Voiceと言いますね。今回の私のお話のきつてとなったのは、このVoiceを日本語で「声」と呼んだらどんなことが分かるだろうか、という思いつきです。 受動文は60年代にチョムスキーの変形文法の理論でしばしば取り上げられた文法です。この講演ではまず受動文の分析から入って行きます。みなさんが英文法を習ったときに、例えば、John loves Maryを受動文にするには目的語のMaryを主語にして、主語のJohnをby Johnとし、述部のlovesをis lovedとして、Mary is loved by Johnになると習ったと思います。これは深い意味構造を無視した受動文の引き出し方です。日本語の「メアリーはジョンに愛されている」の受動文も能動文「ジョンはメアリーを愛している」から受動文を出す、受動文の意味はよく分からないのです。受け身の「声」を発している「メアリー」がはじめから主語に来て、述部に「られている」があり、出来事の内容「ジョンがメアリーを愛している」が文としてはめ込まれ、全体が情意的な意味構造になっています。出来事の述部は必ずしも他動詞とは限りません。自動詞でも問題がありません。ではどんな自動詞でもいいかと言うとそうではありません。ここで新しいことがもう一つ出てきます。それは何かが自然に起こることを示す一群の「自発動詞」は受動文では使えないのです。つまり、受動の声はある出来事が自然に起きて、それに対して「ああ、よかった!」、「ああ、うれしい!」、「ああ、嫌だ!」、「ああ、かわいそうだ!」といったさまざまな程度の感情表現を表します。(例外はありますが、それについても説明を加えます。)私のお話の後半部分では、古代日本語から続いている典型的な自発文以外に、敬語や可能文がどうして受け身の声で使われている「(ら)れる」が使われているのかという問題を統合的に取り上げます。日本語には勿論能動の声を表す表現はたくさんありますが、自発的なパス表現(感情表現)が多いと思います。英語は日本語と異なり、受動の声がないわけではありませんが、それを使うことをためらう心理が強く、日常会話でも能動の声が圧倒的に強いという印象があります。 日本語教育でもさまざまな文法を統括的に説明し、文型を教えることが大事ではないでしょうか。
------	-----------------------	-------------------------------	----------------------	---

2015年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
春季セミナー	3/27(日) 9:20～16:40	学生の学びのために自分の教育について ふりかえってみませんか？ —ポートフォリオ・チャート作成による 自分の教育理念と改善への気づき—	栗田佳代子 東京大学 吉田豊 東京大学	みなさんは教育の改善を普段どのように行っていますか？よりよい教育を目指す方法として、本セミナーでは自己省察に注目します。日頃行っている教育活動についてご自身でふりかえっていただき、自分が持っている理念や方針を言語化して具体的な方法にひもつけていくことで、改善の緒を見だしていきます。自己省察を通して自分の教育を再発見してみませんか。
冬季セミナー	12/19(土) 13:30～16:40	学習者の認知過程・認知特性の心理学	柏崎秀子 実践女子大学	学習や教育の際、学習者の認知過程にも目を向けることが大切です。学習者は学習事項を単に受容するのではなく、自らの知識を活用しながら、能動的に理解し記憶しています。また、各自の認知特性によって、イメージで考えたり概念的に考えたりと、捉え方の得意不得意の傾向も異なります。認知の過程と特性の心理学から、学習の在り方を考えます。
	12/23(水・祝) 9:20～16:40	日本語の習得研究は教師にとってなぜ重要か	迫田久美子 国立国語研究所	(午前)タスクを通して学ぶ第二言語習得研究 (午後)「わかる(知識)」から「できる(運用)」へ 第二言語習得研究は、教育現場の教師に最も身近な研究領域です。それはなぜか、日本語の何が難しいのか、なぜ誤用が起きるのかなど、基礎から最新の研究まで紹介します。実際のデータを紹介しながら、タスク参加型でわかりやすく、講義します。また、どうすれば、「わかる(知識)」と「できる(運用)」を繋ぐことができるのかについても考えます。
対照言語講座	8/9(日) 13:30～16:40	日英対照言語講座	水谷信子 お茶ノ水女子大学・明海大学名誉教授	日本語と英語との対照によって明らかになることを、日本語教育上の参考という観点からとりあげてお話しします。前半では構造面の対照を中心とし、英語の音節と日本語の拍、アクセント、卓立、構文、時の表し方、受け身、否定などを扱います。後半では言語行動面を中心とし、あいづち、依頼表現、詫びと説明、親愛と寄り添いなどの対照から、英語話者とのコミュニケーションの問題も考えたいと思います。
	8/11(火) 18:00～21:10	日垂対照言語講座	スライマーン・アラールディーン 東京外国語大学	本講義では、アラビア語が話されている地域やアラビア語の音声・文法体系について概説した後、具体例を挙げながらアラビア語と日本語の類似点と相違点を指摘し、アラビア語の背後にある文化や価値観がどのようにアラビア語の言語・非言語形式に現れているのか、アラブ人の日本語学習者と日本人のアラビア語学習者にとっての主な困難点は何かを見ていきます。
夏季セミナー	8/10(月) 9:20～16:45	人間解放の教授法-さらばAL・CA!!	川口義一 早稲田大学名誉教授・言語・生活研究所代表	(午前) ドラマ化練習 / 作文指導 (午後) 漢字指導 / 教科書分析 昨年の本講座では、60～70年代の教授法を初級日本語教育に蘇らせるお話をしました。本年は、昨年割愛したドラマ化練習・作文指導・漢字指導の分野と、教科書分析によるよりよい教室活動の創造について、昨年同様、様々な教授法理念の応用から検討したいと思います。その理念は、ALやCAの構造的欠陥を克服し、学習者主体の人間解放教育への展望を開くものです。今回も、担当講師の初級教育実践の成果を基に、ワークショップ形式で議論していきましょう。
	8/11(火) 9:20～16:45	学習力を改善させる自己啓発	宮崎里司 早稲田大学	教室活動を学習者主体に変換させるための手法として、学校教育では、反転授業が採り入れられはじめています。ここでは、日本語教育に、反転授業をどのように採り入れ、教師の役割はどのように変わるのかを考えます。午後の部では、反転授業がめざす自律学習能力を向上させるためのワークショップをデザインします。具体的には、ポートフォリオの有効活用について説明すると共に、学習者が、自らの学びをどのように自己管理すべきかについて考えます。
	8/12(水) 9:20～16:45	ICTを授業に活かす	西郡仁朗 首都大学東京	(午前)教材進化論 紙メディアから編集可能なデジタルデータへ (午後)みんなで作っている日本語教育AVリソースサイト TMU mic-J 現在の日本語教育では、ICTを利用して種々の情報を収集し、また発信することがますます重要になってきています。ICTは本来、人の技で行ってきたことの置き換えプラスαであり、情報のコンテンツ(中身)と人間同士の交流(機器を介することもある)が一番大切です。こうした点を踏まえた教育と学習をみなさんといっしょに考えて行きたいと思います。
	8/13(木) 9:20～16:45	ビジネスプロセスを取り入れる日本語教師・トレーナーとは？	近藤彩 麗澤大学	この数年、ビジネスコミュニケーションについて企業関係者とコラボレーションをし、調査やリソース開発を行ってきました。その成果を踏まえ、今回の研修では、ビジネスプロセスを取り入れる「人材育成」の手法を講義とワークショップ形式で共有します。ケース学習やタスクデザインについても検討し実践の改善を行います。
	8/14(金) 9:20～16:45	自立した書き手を育てるための文章指導	石黒圭 国立国語研究所	日本語で文章を書く必要性に迫られているのは、初級学習者でも中級学習者でもなく、論文やレポート、ESやビジネス文書を母語話者と対等なレベルで書かなければならない上級学習者でしょう。講座では、上級学習者がどのように長い文章を書いていくのか、そのプロセスを分析すると同時に、その分析を踏まえた、自立した書き手を育てる指導法を考えます。
	8/9(土) 13:30～16:40	全米外国語協会(ACTFL)の読むプロフィシエンシーとその判定法は何か？そしてプロフィシエンシーを高めるためには何をすべきか。	牧野成一 プリンストン大学名誉教授	アメリカ外国語教育協会(通称ACTFL)は外国語能力のアセスメントの為に1999年から使ってきた4技能に関するプロフィシエンシー・ガイドライン改訂版を2012年11月に公表している。日本では話すプロフィシエンシーのレベルを決めるOPIが1989年に導入されて以来、4技能のうち話すプロフィシエンシー基準はOPI(= Oral Proficiency Interview) との関係で知られてきているが、読むプロフィシエンシー基準(Proficiency Guidelines for Reading = PGRと略す)は全くと言っていいほど知られていない。そこで、この講演ではPGR(牧野の日本語訳。英語版のウェブサイトは http://actflproficiencyguidelines2012.org/reading)を吟味しながら読むプロフィシエンシーとは何かについて考え、その測定の仕方について提案をしたい。さらに、精読力を正確にする為に私が80年代に考案した読みのための「拡大文節」(修飾語と被修飾語のチャンク(固まり))の認知が複雑な文を読む時にいかに大事かということと、翻訳を導入することにより、それに関わる二つの言語の対照性をつかむことの重要性を考えてみたい。

2014年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
春季セミナー	3/21(土) 9:00～18:00	学生の主体的な学びを支える授業デザイン ～アクティブ・ラーニングの技法の体験～	栗田佳代子 東京大学 吉田豊 東京大学	学生が主体的に学ぶために教師にできることは何でしょうか、「どうすれば学生のモチベーションがひきだせるのか?」、「学生がいきいきと学ぶクラスやグループワークはどのように設計するのか?」、「学びを促す評価とは?」などへのヒントが見つかるような、学生主体の授業づくりに必要な知識や方法を学びます。また、本講座は、種々のグループワーク等を体験しながらの学習が中心となります。一緒に楽しく学びましょう!
特別講座	2/22(日) 13:30～16:40	Oral Proficiency Interview (OPI)は口頭能力をどうやって測るのか。さらにOPIでは文化能力を測れるのか。	牧野成一 プリンストン大学名誉教授	どの外国語教育者でも学習者が現時点で外国語をどのぐらい話せるかに強い興味を持っているはずですが、しかし、どの教育機関でも各自各様の基準で話すテストを行っています。外国語を使ってどのようなタスクをどの程度遂行できるかという汎言語的な視点での口頭能力試験を利用してはなかったのです。実はアメリカの外国語協会(American Council on the Teaching of Foreign Languages, Inc. (通称ACTFL)) がそのような口頭能力試験(Oral Proficiency Interview (通称OPI)) を80年代の後半に開発し、改良してきています。今回は汎言語的な口頭能力を測るOPIの基準がどのような骨格からできていて、それをどのように使って30分以内のテストを行うのかの理論をまず聞いていただき、そのあとにそのデモンストレーションをご覧いただきたいと思います。そしてOPIにどうやって文化を取り入れるか、その能力も同時に測るような提案をしたいと思います。
冬季セミナー	12/21(日) 9:20～12:30	読む力をつける七つの方法	吉田新一郎 「ランズケイブ」代表	優れた読み手＝読書家たちが読むときに使っている方法を明らかにしたら、7つに整理できました。でも、7つにこだわる必要はありません。自分なりにじっくりいく方法が見出せれば、でも、他の人たちとすり合わせた方が、独りよがりにならないでいいかもしれません。
	12/21(日) 14:00～17:10	シャドーイング・音読は読解力の向上に効果がある?	門田修平 関西学院大学	母語、外国語の別を問わず、読解(reading comprehension)では、文字言語の音韻符号化を経て、ワーキングメモリ(working memory)内の音韻ループ(phonological loop)というシステムを活用した処理が必須です。いかいにして、シャドーイングおよび音読のトレーニングが音韻ループ内の情報処理、特に内音声リハーサル(subvocal rehearsal)を促進し、結果として読解力の向上に資するか、お話しします。
	12/22(月) 9:20～12:30	多読授業入門	栗野真紀子 NPO多言語多読	「多読」は、楽しくたくさん読むことをモットーとしています。本セミナーでは、言語を獲得するのにどうして多読がいいのかについて事例を交えてお話しします。また、多読の授業のやり方について映像をお見せしながら御説明します。その他日本語以外の言語での多読体験、多読用読みものを作るリライトワークショップも予定しています。
対照言語講座	8/12(火) 18:00～21:00	日越対照言語講座	五味政信 一橋大学	ここ数年、ベトナム人留学生数が急増し、国内の留学生数において、中国に次いで第2位の位置を占めるに至ったと聞きます。また、介護福祉士や看護師になるために、経済連携協定に基づいてベトナム人138名が来日し、語学研修が始まったとの報道もありました。本講義では、彼らの言語、ベトナム語の概要を紹介し、合わせてベトナム人日本語学習者にとっての困難点などについて考えてみます。
	8/14(木) 18:00～21:00	日中対照言語講座	井上優 麗澤大学	対照言語学は、二つの言語を比べて考えることを通じて、両言語を公平に見る観点を見出す研究です。この講義では、対照言語学的なものの見方について解説しながら、日本人と中国人のコミュニケーション様式(ことばおよび行動)を比較し、どう考えればコミュニケーションをめぐる互いの「違和感」が「共感」に変わるかということをお話しします。
夏季セミナー	8/11(月) 9:20～16:45	学習者の立場に立った漢字指導	徳弘康代 名古屋大学	国語教育を受けてきた日本人教師が見落としがちなのは、漢字教育の項目について触れます。また、よく使う漢字を覚えたいという要望に応えた、ネットや新聞の頻度順の漢字資料を紹介し、重要漢字語彙リストを電子ファイルで提供します。必要な方はUSBメモリをご用意ください。ワークショップでは連想によって言葉を増やしていく語彙マップを使った漢字語彙学習を行います。
	8/12(火) 9:20～16:45	インターアクション能力を育てる会話教育	中井陽子 東京外国語大学	学習者が会話に積極的に参加していくためには、語彙・文法等の「言語能力」だけでなく、話し手・聞き手として話題を展開させていく「社会言語能力」や、実質的な行動を行っていく「社会文化能力」も必要です。こうした「インターアクション能力」を育てる理論と実践について、データ分析や授業デザインのグループワークを通して、検討します。
	8/13(水) 9:20～16:45	中上級のアカデミック・ジャパニーズ聴解力の養成	坂本恵 東京外国語大学	聴解力にもいろいろな考えられますが、ここでは、アカデミック・ジャパニーズの聴解を中心に、アカデミックな場面で求められる聴解力とはどんなものか、それをどのように養成するのかについて考えます。また、授業では聴解だけでなく、聴解を入り口として他の技能を養成することも可能です。市販の教材の使い方、生教材の活用方法などについても扱いたいと思います。
	8/14(木) 9:20～16:45	今、蘇る教授法-その現代的意義	川口義一 言語・生活研究所代表、早稲田大学名誉教授	The Silent Way、VTS、TPR、Natural Approachなどは、教師養成講座の教授法の講義では必ず触れられるものの、それが実際に日本語教育に应用されたらどうなるのかを教えている講座は皆無と言えます。それは、養成講座の講師自身が、それらの教授法理念が21世紀の外国語教育にとって、いかなるメッセージを含んでいるかを理解していないせい입니다。本講座では、川口版「21世紀の外国語初級教育の12のテーゼ」を示し、川口の初級教授法実践の紹介を基に、これらの教授法の現代的意義についてワークショップ形式で皆さんといっしょに再検討していこうと思います。
	8/15(金) 9:20～16:45	ある日ビジネス日本語教育を教えてと言われたら	堀井恵子 武蔵野大学大学院 種村政男 武蔵野大学	グローバル化の進展とともに日本語を使って仕事を遂行する外国人材のニーズが高まっていますが、仕事をしていくためには、従来求められていた日本語能力だけでは十分ではありません。そこで、ビジネス日本語教育が開発されていますが、教師が少ない現状です。本講座では、ビジネス日本語教育のカスタマイズ(シラバス・教授法・教材)を中心に、実践力をつける方法を紹介します。

2013年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
対照言語講座	8/13(火) 18:00～21:00	対照言語講座 日中	王宗瑜 四川外国語大学	日本語教育の現場において、重要でありながら、十分に検討されていないのは、学習者の母国語・母国文化からの影響問題です。本講義では、講師が中国の日本語教育現場で積んだ経験を基に、日本語・中国語の単語と文法を例に挙げて、その違いの背景にある文化・発想について紹介し、中国語母語話者に対する日本語教育及びその教え方の改善などを考えたいと思います。
	8/15(木) 18:00～21:00	対照言語講座 日越	五味政信 一橋大学国際教育センター	かつてはベトナム戦争で世界の耳目を集めたベトナムですが、現在ではドイモイと呼ばれる市場経済政策を実施する社会主義の国として、或いは雑貨天国の旅行先としてテレビ等で取り上げられています。今回の講義では、そのベトナムのお国事情や教育事情、そしてベトナム語の表記文字、発音、声調などをご紹介するとともに、日本語との対照を通じてベトナム語とはどのような言語かについて考えてみます。
夏季セミナー	8/12(月)	指導者のためのボイストレーニング 伝わる声・話し方・姿勢～ワークショップ	新島尚子 語燈コラボ	(午前)「伝わる声・話し方・姿勢とは？」 (午後)「内容をより効果的に伝えるために」 教師は教室という舞台の作・演出・出演を担当しているのです。個人と言うパーソナリティも大切にしながら、よりよい授業展開を目的とした表現技術を身につけましょう。 午前は発声体操・滑舌練習を通して、自分自身の声を聴きましょう。午後は日本語音声の特性を踏まえ、指導者にとって必要とされる適切な音声表現はどのようなものか、朗読練習を通して学んでいきます。
	8/13(火)	音声表現力を高める音声教育	大久保雅子 早稲田大学	(午前)「音声教育に必要な知識」 (午後)「効果的な音声指導とは」 発話意図を正しく伝えるためには、音声が必要な役割を担っています。日本語学習者は日本語の音声特徴を理解し、豊かな音声表現力を身につけることが求められます。本講座では、教師が日々の授業で実践できる音声指導方法を今注目されているシャドーイングを含めて紹介し、表現力を高めるための音声教育を考えていきます。
	8/14(水)	ビジネス日本語教育について考える	向山陽子 お茶の水大学 村野節子 武蔵野大学	(午前) 理論編 (午後) 実践編 グローバル化した日系企業で優秀な海外人材が求められている現在、国内でも国外でもビジネス日本語教育が盛んになってきました。では、ビジネス日本語教育で何を教えればいいのか。また、どのように教えればいいのか。 本講座ではこれらの問題についてワークショップ形式で皆さんとじっくり考えていきたいと思います。
	8/15(木)	中上級学習者の会話を鍛える	本郷智子 東京農工大学	(午前) 理論編 (午後) 実践編 会話教育で大切な点 は、学習者自身が自分のコミュニケーション行動を観察し、分析する目を養うことだと考えています。それを目指した授業活動を行うために、教師は何をすればいいのでしょうか。この点を実際の会話場面を見ながら参加者の皆さんと一緒に考えます。理論編 では会話教育の目的と活動内容について情報共有します。また、実践編では、会話ビデオクリップをグループごとに視聴し、何をどのように分析するかを話し合います。
	8/16(金)	中上級教材の作り方・使い方—文法・読解・聴解	三門準 亜細亜大学	(午前) 文法編 (午後) 読解・聴解編 現在、中上級の教材は様々なものが刊行されています。しかし、現場ではそれらの教材を教えるだけになっていないでしょうか。自分なりのオリジナルな授業にするためには、教材の使い方を工夫したり、自作の教材も必要になります。今回の講座では素材選びや作成練習、他者評価などを通じて、すぐに教室で使える教材開発のノウハウを学んでいきます。また、スマートフォンやiPadを使ったデジタル教材の可能性についても検討していきます。

2012年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
対照言語講座	8/14(火) 18:00～21:00	対照言語講座 日英	メグ・ナカノ クラウンワールドワイド株式会社 Senior Mobility Consultant	今回は、在日歴39年間の講師をお迎えし、英語母語話者およびビジネス・パースンの視点から、日常生活やビジネス場面の観察を通して得られた英語と日本語によるコミュニケーションの違いについて、そしてそこから見えてくる発想や考え方の違いなどを受講者とともに考えていきます。
	8/16(木) 18:00～21:00	対照言語講座 日中	孫国震 一橋大学	中国語と日本語の比較を通して、中国人の発想を理解し、中国語圏の学生が日本語を学ぶ際の問題点を具体的に考えます。中国人への日本語指導もあり、日本人への中国語指導のご経験も長い孫先生による日本語教師のための日中文化論です。
夏季セミナー	8/13(月)	活動型でアップさせる初級のことばの力	武一美 早稲田大学	(午前) 活動型の考え方と方法 (午後) 活動型の授業案を考える 活動型クラスでは、学習者が「お互いの考えを伝え合い」「日本語で人とつながる自信」を身につけていきます。その考え方と方法を具体的な例をあげながら説明し、初級における活動型の必要性和実現可能性を各自の授業や現場に照らしあわせてともに考えていきます。そして、初級のことばの力を改めて捉え直したうえで、実際に活動型の授業案を考えます。
	8/14(火)	ビジネスのための日本語の指導	(午前) 近藤彩 政策研究大学院大学 (午後) 品田潤子 (社)国際日本語普及協会	(午前) 課題達成のプロセスで学ぶ日本語1 (午後) 課題達成のプロセスで学ぶ日本語2 午前は、グローバル時代で求められる人材と職場のダイバーシティの中で仕事をしていくことについて考えていきます。課題達成能力をキーワードに、学習活動デザインについてワークショップ形式で検討します。午後は、マーケティング戦略の手法であるSWOT分析のワークショップを行い、そのプロセスを全員で共有します。1日かけて「課題達成のプロセスで学ぶ」とはどういう学び方なのか、理解を深めていきます。
	8/15(水)	中上級の会話力アップをめざして！	植松容子 昭和女子大学	(午前) コミュニケーション活動を高める授業とは？(理論編) (午後) コミュニケーション活動を高める授業とは？(実践編) 中上級の会話授業では、設定された場面での会話を通して表現を指導していくことが多く見られます。この場合は、ある程度の正解が存在するわけですが、実際には話し手側の話し方も聞き手側の受け取り方も個人によって異なります。この授業では中上級の会話授業の目的を「コミュニケーション能力の養成」とし、午前中は理論を、午後は受講生のみなさんによるワークショップ形式で進めていきます。
	8/16(木)	再考、漢字の指導	(午前) 春遍雀來 日中韓辞典研究所 (午後) 関麻由美 津田塾大学	(午前) 外国人の視点から (午後) 活動目標(何ができるか)を考える 午前は、非漢字圏外国人でありながら漢字学習者向け漢英字典を編集した筆者自らの経験から、丸暗記によらない体系的な学習方法や効果的な学習ツールを紹介します。午後は、ひたすら書いて覚えるという以外にどんな方法が提案できるか、「覚える」ことを中心に考え、後半は、この漢字を学習すると「何ができるか」という観点からクラス活動を考えるワークショップをします。
	8/17(金)	中上級の読解・聴解指導	三門準 亜細亜大学	(午前) 理論編 (午後) 実践編 現在、中上級の聴解・読解の授業では、様々な指導法が提案されています。今回はそれらのいくつかを紹介し、検討していきます。また、各自が担当する教育現場にふさわしいオリジナル教材の作成を試み、教材開発のノウハウも学んでいきたいと思っています。

2011年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
対照言語講座	8/16(火) 18:00～21:00	対照言語講座 日中韓	井上優 麗澤大学	「比べて考える」とは、言語研究・言語教育において最も重要なことの一つです。本講義では、日本語・中国語・韓国語の文法を例にあげて、言語の対照研究の実際について紹介し、それをふまえて、対照研究の知見を日本語教育に生かす方法について考えます。あわせて、文法研究者の発想が日本語教師の「異文化」理解に意外と役に立つことも述べたいと思います。中国語・韓国語に関する予備知識は特に必要ありません。
	8/18(木) 18:00～21:00	対照言語講座 日英アーサーの言の葉(ことのは)食堂へいらっしゃい!	アーサー・ピナード 詩人・翻訳家	言葉は伝達のための道具ではあるが、同時に生活を吟味するツールという役割も果たします。人間は、食物も言語も飲み込み、両方の栄養によって生かされます。しかし、放射能汚染が食の安全を脅かしている今、言葉のベテン汚染度も深刻です。講座では、日本語と英語を自由自在に操る詩人が、あざやかな包丁さばきで、滋養に富む表現と有害な表現を切り離します。日本語教師としてどんな言葉を提供すべきか、問題の核心に触れながら味わい深く提案します。
夏季セミナー	8/15(月) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	初級の授業を活性化する!	荒川洋平 東京外国語大学	(午前)認知言語学を学ぼう (午後)認知言語学で授業を作ろう 認知言語学の研究は、外国語教育にさまざまな応用が可能です。この講座では初級の語彙指導にこの分野がどう役立つのか、ご自身の日頃の授業の内省とともに考えていきたいと思います。内容は、「理論を聞いたけど分からない」という講義の「対極」を目指します。具体的な実践からはずれることなく、役に立つワークショップも含めてこの分野の先端まで皆さんを連れて行きます。
	8/16(火) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	再考、漢字の指導	前原かおる 東京大学	(午前)「新しい文字を学習する」とは? (午後)漢字の授業、漢字の教材 多くの教育現場では、限られた授業時間の中で「漢字の指導」にはそれほど時間がとれないのが現状ではないでしょうか。そんな中で教師ができる「効果的な指導」とは何かを、「文字」と「学習者」の両方の切り口から、ワークショップ形式で考えていきます。学習者としては、非漢字圏の初級レベルを中心に扱いますが、一部、中級レベルや漢字圏学習者にも広げたいと思います。
	8/17(水) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	上級の会話力・聴解力を伸ばすには?	(午前) 齊藤真理子 文化学園大学 (午後) 三國純子 文化学園大学	(午前)「意見述べ」を改善する (午後)講義を聴くために必要な力 午前は、上級話者のインタビューのデータを基に、上手に意見を述べるには何が必要かを考えます。どのように意見を構成し、どのような言葉を使うと上手に聞こえるのか具体的に見ていきます。午後は、講義のテープを使って学生の理解の妨げになっている要素は何か、そしてその改善方法について考えます。ともに、大学に進学する学生を指導する日本語教師に役立つ内容です。
	8/18(木) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	中・上級の文章表現を鍛える!	(午前) 簡井千絵 フェリス学院大学 (午後) 安部達雄 一橋大学	(午前)わかりやすい文章が書けるようにするには? (午後)実践的な課題の出し方とその解き方 中・上級学習者の作文指導では、「いくら直しても間違いが減らない」「間違いとは言えないが…」などの問題に悩まされます。午前は、こうした問題の改善法を考えます。一方、上級者には社会生活で使える実践的な文章力が必要ですが、教師が「優等生的」文章を推奨しては、実践からかけ離れるばかりです。午後は、特に上級の指導において、書く前と書く時の指導のポイントや学生に与える課題について考えていきます。
	8/19(金) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	発音の指導を見直そう	中川千恵子 早稲田大学	(午前)イントネーションに焦点を置いた発音指導 (午後)発音指導ワークショップ 発音指導を「難しい」「特別なもの」「時間がない」などと考え、敬遠する教師は少なくありません。発音よりも文法や単語を増やすのが肝心だと思って後回しにすることも多いでしょう。しかし、その割を食うのは学習者自身であり、教師も「大切だけど…」と悩むことになりがちです。今回は、特にイントネーションに焦点を置いた指導を皆さんの普段の授業と切り離さずに行うことを考えます。

2010年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
対照言語講座	8/17(火) 18:00～21:00	対照言語研究 日タイ	高橋清子 神田外語大学	タイ人学生がクラスにいないが、私たちは彼らの言語に無知のままでいいのでしょうか。タイ語会話を聞いて音の雰囲気を知っていただくことから始め、タイ語の特徴(音韻体系、文法体系、文字体系など)のほか、タイ人が日本語を学習するときに困難を覚えそうな点、さらにタイ人の学習態度などについて、基本的なことを押さえていきます。
	8/18(水) 18:00～21:00	対照言語研究 日英	清水崇文 上智大学	日本語と英語の違いは、言語形式(音声、表記、文法など)だけではありません。文化の違いがどのように言語コミュニケーションに反映するかを研究する異文化間語用論の立場から、日本語と英語ではコミュニケーションの仕方にどのような違いがあるかをわかりやすく紹介します。さらにこうした違いが学習者のコミュニケーション能力の習得に及ぼす影響について考えていきます。
	8/19(木) 18:00～21:00	対照言語研究 日中	黄 麗華(こう れいか) 聖心女子大学	中国語(普通語)と日本語の比較を通じて中国人のものの見方・考え方を理解することを目的としてこの講座を毎年開講していますが、まだまだ私たち日本語教師が知っておくべきことがたくさんあります。今回は中国の方言についても取り上げる予定です。中日の対照研究や日本人に対する中国語指導など実践と研究の豊富な黄先生が今回も熱血指導をしてくださいます。
夏季セミナー	8/16(月) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	実践ビジネス日本語	(午前) 堀井恵子 武蔵野大学 (午後) 種村政男 武蔵野大学	(午前)ビジネス日本語教育の最先端 (午後)挑戦！BJT&教材ワークショップ 企業のグローバル化や日本の少子高齢化などに伴い、国内外で日本語を使って仕事をする外国人が増加、ビジネス日本語のニーズが高まっています。前半では、ビジネス日本語教育のシラバス・教材・教授法の最先端を教室活動の様子を交えて紹介します。後半ではビジネス日本語能力テスト(BJT)を体験してどう活用できるのかを考え、さらにワークショップ形式でビジネス日本語教材作成に挑戦します。
	8/17(火) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	アニメとマンガを生かす！	(午前) 熊野七絵 国際交流基金関西国際センター (午後) 矢崎満夫 静岡大学	(午前)アニメ・マンガと日本語教育 (午後)「アニメで日本語」ワークショップ 学習者に人気のアニメ・マンガを日本語教育にどう活用できるのでしょうか？アニメ・マンガと学習者を取り巻く現状、教材、アニメ・マンガの日本語の特徴を紹介するとともに、「アニメ・マンガの日本語」ウェブサイトを活用した授業体験、アニメを素材とした学習活動「アニメで日本語」のワークショップを通じて新たな活用方法について考えます。アニメやマンガをもっと有効に使いたいとお思いの先生方、大歓迎。
	8/18(水) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	再び、漢字の指導を考える	加納千恵子 筑波大学	(午前)学習者特性と漢字指導法 (午後)漢字教材ワークショップ 非漢字圏学習者の特性を考慮しながら、今までの漢字教材、漢字指導で用いられてきたアプローチを整理し、有効な教育方法についてあらためて考えます。その上で、午後のワークショップでは参加者の持ち寄った材料を基に漢字の副教材作りをする予定です。昨年とは異なった角度からより実践的な漢字指導を追究していきます。
	8/19(木) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	大学院進学のための日本語指導	(午前) 仁科喜久子 東京工業大学 (午後) 長谷川恒雄 長沼スクール	(午前)理系大学院に必要な日本語とは？ (午後)研究計画書作成の指導法 午前は理工系の学部及び大学院の留学生について、実際にどのような日本語能力が必要なのか、さらに学生側はどう思っているのかを調査結果を基に紹介し、その上で、彼らに必要な日本語能力向上の方略を考えます。午後は理系・文系を問わず、大学院入学出願時に要求される研究計画書について、そこで何が求められているのか、そのために「内容・形式・文体」をどのように指導したらよいのかを学生が書いた計画書も参考にしながら考えます。
	8/20(金) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	新日本語能力試験から見えるもの	(午前) 木村哲也 杏林大学 (午後) 齊藤ひろみ 東京学芸大学	(午前)CEFRとの関係から考える (午後)自分の世界を広げる日本語教育 私たちはとすれば新旧の表面的な違いが目が行きがちですが、新試験は実は私たちの日々の授業の再考を促しているのです。午前は、新試験が目指しているものをその背景にあるCEFR(ヨーロッパ共通参照枠)との関係から読み解きます。それを踏まえて午後は新試験の導入によって期待される日本語教育のあり方について、作業等を通して具体的なイメージをつくり、どのようなフィードバックが学習者にとって本当に有用なのかについて考えていきます。

2009年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
対照言語講座	8/10(月) 18:00～21:00	対照言語研究 日韓	崔 文姫 (チェ ムンヒ) 国士舘大学	崔先生は日本人に対する韓国語教育のほか、日韓の談話研究もされています。ネイティブスピーカーとして、そして韓国語指導のご経験、さらに研究者としての知見も交えて、日本語と韓国語の違いや、韓国の人は他の母語の学習者よりも(発音以外)日本語学習で本当に「苦労が少ない」のか等について考えてみます。
	8/12(水) 18:00～21:00	対照言語研究 日英	広田紀子 上智大学	日本語教授法および日英翻訳を研究・実践されてきた広田先生をお迎えし、私たちが知っているようで知らない両言語の違いについて考え、英語圏の学生が日本語を学びやすくするためのヒントをいただきます。日本語教育も翻訳も、共通の課題である言葉による伝達の方法を探っているの、双方向化から注目してみたいと思います。
	8/13(木) 18:00～21:00	対照言語研究 日中	黄 麗華 (こう れいか) 聖心女子大学	中国語(普通語)と日本語の比較を通じて中国人のものの見方・考え方を理解するとともに、中国語圏の学生に日本語の指導をする際の注意点などアドバイスをいただきます。日本人に対する中国語指導、中日両言語における可能表現やアスペクトの対照研究など、実践と研究の豊富な黄先生が今回指導してくださいます。
夏季セミナー	8/10(月) 午前 9:20～12:30 午後 13:30～16:45	活動型の授業とは？	(午前) 細川英雄 早稲田大学大学院 武 一美 早稲田大学日本語教育研究センター (午後) 須賀和香子 早稲田大学日本語教育研究センター 市嶋典子 早稲田大学日本語教育研究センター	(午前)活動型クラスは何をめざすのか (午後)活動型クラスで教師は何をするのか 活動型日本語教育の背景とそのめざすものを理解し「内容中心・コミュニケーション活動」とは何かについて考えます。さらに、活動型の授業を皆さんが実際に学習者となって体験し、その上で、教室で教師は何をするのかについて考えたいと思います。特に日本語学校の先生方に、教師経験の長短を問わず、また教授法の如何に関わらず、日頃の教室活動とご自身の教育感を振り返る強力な視点を提供します。
	8/11(火) 午前 9:20～12:30 午後 13:30～16:45	中・上級の授業、もうひと工夫！	(午前) 荻原雅佳子 明海大学 (午後) 伊藤とく美 岩谷学園テクノビジネス専門学校	(午前)話すのが上手とは？ (午後)どうやって何を教える？ 中・上級の授業で、どうやって話技能向上のための指導をすればいいのでしょうか。それには、まず「上手に話せる」とはどういうことなのかという基準を教師が明確に持っている必要があります。進学をめざす学生も含め、上級話者になるためには、どのようなことができるなければならないのかを明らかにした上で、そのための指導をどうすべきかについて活動を通して学びます。
	8/12(水) 午前 9:20～12:30 午後 13:30～16:45	非漢字圏学習者のレベルアップ！	シュテファン・カイザー 筑波大学大学院	(午前)非漢字圏＝悲観事図？調査・研究からみえる実態像 (午後)『漢字は覚えただけで症候群』から抜け出せるのか 非漢字圏の文字使用者にとっての漢字、特に日本の漢字はどういうものなのでしょうか。文字のタイプ文字体系間距離、語彙体系間距離などの尺度からまず押さえます。その上で、英語圏などで試みられてきた漢字の指導法・学習法のシステム化の例を取り上げ、その長所・短所についてディスカッションしつつ、有効な教育法とは何かを考えます。
	8/13(木) 午前 9:20～12:30 午後 13:30～16:45	あなたの授業を活性化するには？	(午前) 鈴木真理子 桜美林大学 (午後) 金子史郎 東京日本語文化学校	(午前)発話を引き出す活動でクラスが活きる！ (午後)アクティビティを体験し、考え、使う！ いつもの授業をさらに活き活きワクワクしたものにしませんか。学習環境と授業活動をほんの少し変えるだけでモチベーションが高まり、楽しい授業が広がります。そのアイディアについて、午前・午後とワークショップ形式で体験し、明日の授業のイメージを豊かにします。初級、中級、上級のどのクラスでも応用可能な活動を扱っていきます。
	8/14(金) 午前 9:20～12:30 午後 13:30～16:45	定着するための授業とは？	(午前) 小柳かおる 上智大学 (午後) 向山陽子 武蔵野大学大学院	(午前)なぜ定着しないのか(理論編) (午後)どうすれば定着するのか(実践編) そもそも「定着する」とはどういうことなのでしょうか。そこには、私たちのビリーフや経験に根ざした強い思い込みが介在していないとも限りません。第二言語習得研究からの最新の知見を基に、学習者の頭の中で何が起きているのか、どうやったら定着するのかを考えてみたいと思います。また、そのために教師は何ができるのか、効率的な教室活動を考えて行きます。

2008年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
対照言語講座	8/12(月) 18:00～21:00	対照言語研究 日英	林 望 作家、書誌学者	リンボウ先生としてご活躍の林望先生をお招きしました。「〈英語で〉暮らす」ということはどういうことかをテーマに、そこから見える文化の違いや問題の克服、異文化接触などについて、先生のご経験から語っていただく「へそまがり対照言語講座」。
	8/14(水) 18:00～21:00	対照言語研究 日中	戸田昌幸 麗澤大学	対照言語研究とともに留学生教育、日本語教師育成に長年従事されている戸田先生をお招きし、両言語の違いについて押さえておきたいポイントや、中国語圏の学生が日本語を学ぶ際の問題点やその対策について具体的に考えていきます。 (※中国語ができなくても受講できます。)
	8/15(木) 18:00～21:00	対照言語研究 日韓	許 明子 筑波大学	筑波大学留学生センターで日本語教育に携わっている許先生をお招きし、韓国人学習者の学習問題点について、その原因と指導方法を考えます。韓国人にとって学びやすいと言われる日本語ですが、本当にそうなのか、どんな点で学習者が困難を感じているのか、理解を深めます。 (※韓国語ができなくても受講できます。)
夏季セミナー	8/11(月) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	習得論から授業を斬る！社会と響きあう日本語教育へ	宮崎里司 早稲田大学	(午前)日本語教育の学習者とは (午後)自然習得環境から授業改善へ 教師が改善力をつけるためには、習得論の視点から授業を点検するすることが必要です。これまでの言語習得研究を振り返るとともに、午前は日本語教育が想定している学習者を問い直し、午後は外国人相撲力士など自然習得環境の学習者に焦点を当て、授業を活性化することを具体的に考えていきます。
	8/12(火) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	ビジネス日本語の課題と実践	(午前) 近藤 彩 政策研究大学院大学 (午後) 品田潤子 国際日本語普及協会	(午前)職務遂行の観点から振り返る (午後)職務分析から授業を考える 午前は、ビジネス現場で働く外国人の問題点にもとづいて、自らの教授観を振り返り、職務遂行という観点から実践に結びつける方法を検討します。午後は、職務を遂行するためにはどのような日本語能力が必要か、職務の具体例をもとに検討します。そのうえで、効果的な授業を考えていきます。
	8/13(水) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	改善力をつけよう！	(午前) 河野俊之 横浜国立大学 (午後) 坂口和寛 大月短期大学	(午前)効果の上がない音声指導は教師のプライドにかかわる (午後)あいまいな語彙説明は教師の沽券にかかわる 音声指導では、説明してリピートするという方法をよくしますが、それではなかなか発声がよくなりません。また、中・上級学習者からの類義語の質問に「だいたい同じ」と答えたり、参考書を見てもよくわからなくなることがあります。教師としてこのようなときにあきらめず、改善していける方法を考えてみます。
	8/14(木) 午前 9:20～12:30 午後 13:30～16:45	〈日本語教育から〉文法を見る	(午前) 小林ミナ 早稲田大学 (午後) 小西 円 早稲田大学	(午前)初級文法シラバスを見直そう【講義】 (午後)バリエーションに目をむけよう【ワークショップ】 日本語の教科書を見て「こんな言い方しないと思う」と思ったことはありませんか。教科書の文法項目は、どのような言語観・言語教育観のもとに選ばれたもののでしょうか。今回は文法項目を「使用実態」という観点から見直し、ワークショップを通じて、初級の教室活動をぐっとリアルなものに変えていきます。
	8/15(金) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	中・上級の授業、もうひと工夫！「知っている」から「使える」へ	(午前) 荒巻朋子 東京学芸大学 (午後) 太田陽子 相模女子大学	(午前)ロールプレイの効果と実践 (午後)モダリティの表現指導を考える 初級段階で学習した文法を中・上級段階で上手に運用できない学生の運用力向上のため、午前中は運用力向上のためのロールプレイの効果を考え、さらに実際の授業におけるロールプレイの実践方法を考えます。午後は、モダリティの会話・作文を中心に中・上級者の運用力をつけるための工夫を考えます。

2007年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
対照言語講座	8/14(火) 18:00～21:00	対照言語研究 日韓	李允希 (イユニ) 東京成徳大学 NHKラジオ講座	韓国語と日本語を音声・文法・表現の各レベルで比較して、韓国語の特徴と韓国人の考え方を理解し、韓国の学生が日本語を学ぶ際の問題点を具体的に考えます。 (受講条件)今回は、韓国語の少なくとも入門レベルを学習した方々を対象とします。
	8/15(水) 18:00～21:00	対照言語研究 日英	灰島かり 翻訳家 児童文学研究者	今回は、翻訳の専門家をお招きし、私たちが「知っているようで知らない」両言語の特徴や背後にある発想の異なり具合を児童書を手がかりに具体的に検討していきます。学習者をよく知るという日本語教師の課題に対して新たな視点を提供する異色講座。
	8/17(金) 18:00～21:00	対照言語研究 日越	清水政明 大阪外国語大学	ベトナム語と日本語を音声や文法レベルで比較し、ベトナム語の特徴やベトナム人の考え方を理解するとともに、彼らが日本語を学ぶ際の問題点を具体的に考えます。東南アジアの学生を指導している日本語教師への要望の入門編第一弾。
夏季セミナー	8/13(月) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	日本語教育の文法、再点検！	野田尚史 大阪府立大学	(午前)従来の教材の批判的検討を通して (午後)理想的な教材の作成を目指して これまでの日本語教育の文法は文の構造を教えることが中心でした。これからはコミュニケーション能力を高めるための文法が重要になります。午前はこれまでの文法観の弊害を実際の日本語教科書を例にして検討します。午後は教材案の試作を通して考えます。従来の文法・文型でこりかたまった頭をほぐし、教材作成の指針を提供します。
	8/14(火) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	改善力をつけるチェックポイント	(午前) 木谷直之 国際交流基金日本語国際センター (午後) 久保田美子 国際交流基金日本語国際センター	(午前)教授観・学習観を振り返る (午後)学習素材を通して教授観を見直す 午前は自分自身の教授観・学習観を振り返ります。自らの考えを広げ、より柔軟な姿勢で日本語教育に取り組むにはどうしたらよいか考えます。午後は具体的に学習素材の扱い方を通して教授観を見直し、午前の部で得られたものを実践に結びつける具体的方法を考えます。教師経験の長短を問わず、現場指導のあり方を内省するいい機会です。
	8/15(水) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	日本語学校でできるピア・ラーニング	(午前) 館岡洋子 早稲田大学 (午後) 池田玲子 東京海洋大学	(午前)ピア・リーディングのすすめ (午後)ピア・レスポンスのすすめ ピア・ラーニングは、学習者が活動に主体的に参加し、お互いに学び合うことで思考を深め、新たな発見をし、それを通して日本語力や学習意欲を高めることを目指しています。午前は読みを中心とした活動、午後は作文を中心とした活動に焦点を当て、ピア・ラーニングの実際について具体例と活動体験を通して、実践へと導きます。
	8/16(木) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	これでいいのか、評価法	(午前) 伊東祐郎 東京外国語大学 (午後) 奥田純子 コミュニケーション学院	(午前)日本語力の再考察！ (午後)日本語学習と評価ツールの再構想！ 日頃のテストを振り返り、「よいテスト」とは何かを問い直しながら、測定しようとする日本語力を再考し、妥当性の高い試験について考えます。その上で、今後の日能試や日本語スタンダードの動きに注目し、私たちの環境での日本語教育のあり方、テスト結果から得られる情報の有効な活用方法や評価ツールのあり方を探索します。
	8/17(金) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	中・上級の読解指導、もうひと工夫！	(午前) 佐久間まゆみ 早稲田大学 (午後) 藤村知子 東京外国語大学	(午前)文章型を生かした速読指導の分析 (午後)文章型を生かした速読指導の実践 マンネリ化しがちな読解指導、学習者に必要な速読力を身につけさせるにはどんな方法があるのか。午前は「文章型」という概念を使い、さまざまな種類の文章を分析して要約し、早く正しく読む方法について考えます。午後は、教材の文章を分析し、要約することを通じて、読解力を向上させるための工夫を考えます。

2006年度

種別	日時	タイトル	講師・所属	内容
対照言語講座	8/14(月) 18:00～21:00	対照言語研究 日韓	許 明子 (ホ ミョンジャ) 筑波大学	外国人留学生の日本語教育にも従事されている許先生をお招きし、韓国人学習者の誤用についての原因と対策を考えます。韓国人にとって学びやすいといわれる日本語は本当にそうなのか、どんな点で学習者が苦勞するのか理解を深めます。
	8/15(火) 18:00～21:00	対照言語研究 日英	Daniel Long ダニエル ロング 首都大学東京	20年以上にもわたる在日経験と日本語及び日本語教育の研究の観点から、日本人が「知っているようで知らない」日本語者と欧米系話者のものの見方・考え方の違いを考え、さらに日本語指導を改善するためのヒントをいただきます。
	8/17(木) 18:00～21:00	対照言語研究 日中	陳 淑梅 (ちん しゅくばい) 東京工科大学 NHK講座	中国語と日本語の比較を通して、中国人の発想を理解し、中国語圏の学生が日本語を学ぶ際の問題点を具体的に考えます。日本人への中国語指導、日本語や日本文学研究などのご経験を踏まえた、陳先生による日本語教師のための日中文化論。
夏季セミナー	8/14(月) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	中・上級の教材 作り方・生かし方	(午前) 吉岡英幸 早稲田大学 (午後) 三門準 亜細亜大学	(午前)聴解教材 (午後)読み教材 聴解授業は聞いてわかればいいという授業でいいのでしょうか。ニュースなどを教材化し、再生練習を組み合わせた総合的な授業の方法を考えます。また、授業での読解と、学習者が日常行っている「読む」という言語行動は果たして同じでしょうか。IT化した社会の中での読解教育についても考えていきます。
	8/15(火) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	マンネリを打ち破る！ 新しい初級授業観	川口義一 早稲田大学	(午前)講義編 (午後)ワークショップ編 授業を真に表現のための授業にするには、どんな考え方が必要なのでしょう。この根本的な問題について、初級の文法・文型指導を中心に「文脈化」と「擬人化」という枠組みで考えます。そうすると、今までの初級の授業が大きく変わります。午前中に考え方とその成果を紹介し、午後は指導案を検討します。
	8/16(水) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	会話能力再発見！	(午前) 鎌田修 南山大学 (午後) 堤良一 岡山大学	(午前)考察による再発見 (午後)ワークによる再発見 会話指導の焦点が曖昧になりがちな中・上級の授業を改善したい。そのためには、自明のように思われている会話能力を、まず、プロフィエーションという見方から解きほぐし、そこに新たな発見をめざします。さらに、実際の会話データを分析することにより授業で実践できる会話力促進法の発見をめざしていきます。
	8/17(木) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	もう避けて通れない アカデミック・ジャパニーズ -大学および予備教育での取り組み方-	(午前) 門倉正美 横浜国立大学 (午後) 嶋田和子 イーストウエスト日本語学校	(午前)大学日本語教育での取り組み方 (午後)予備教育での取り組み方 アカデミック・ジャパニーズの根本は「学び」と「コミュニケーション」の日本語力の育成です。午前は大学の日本語教育の場における実践のあり方、午後は予備教育・進学教育における実践のあり方について、それぞれ具体的な実践例をもとに考えていきます。
	8/18(金) 9:20～12:30/ 13:30～16:45	習得論から授業を斬る！ -インプット理解に焦点をあてた授業設計-	(午前) 迫田久美子 広島大学 (午後) 横山紀子 国際交流基金	(午前)文法項目を中心に (午後)談話レベルを中心に 第二言語習得研究で得られた成果を整理し、習得過程においてインプットが果たす役割を再考します。聴解を取り上げ、教室での問題点から具体的なタスクや授業設計を皆さんとワークしながら考えて行きます。